

第 15 回日本国際保健医療学会 総 会 プログラム・抄録集

2000 年 8 月 3 日（木）～ 5 日（土）
長崎大学熱帯医学研究所
長 崎

国際保健医療
第 15 巻増刊号
平成 12 年 8 月

第 15 回日本国際保健医療学会総会事務局
長崎大学熱帯医学研究所
病原体解析部門・分子構造解析分野
〒 852-8523 長崎市坂本 1—12—4
Tel 095-849-7827 Fax 095-849-7830
E-mail f1281@cc.nagasaki-u.ac.jp

歓迎のご挨拶

第15回日本国際保健医療学会にご参加いただきました皆様に対しまして、ことに一般演題をお申し込みいただきました会員の方々に対しまして、学会長として心から歓迎の意を表明させていただきます。本学会の年次総会が当地長崎で開催されるのは今回が初めてであり、総会の開催をお引き受け致しました者として、その責任を痛感いたしております。幸いにして、現在私が奉職いたしております長崎大学熱帯医学研究所の教授をはじめとする関係者各位のご協力によりまして、今日ここに開催にこぎつけることができましたことを感謝の念を込めてご報告申し上げます。準備万端不行き届きの点も多数あるかと存じますが、関係者各位の努力に免じて何卒ご容赦下さいますようお願い申し上げます。

本学会が当地長崎で、しかもこの時期に開催されますことは、いくつかの意味におきまして重要なこととであります。

第一に、皆様もよくご存じのとうり、江戸時代には日本は鎖国体制下であり、当地長崎が西洋医学をはじめとする西洋文明に開かれた唯一の窓口でありました。ある意味では当時の日本は国際保健医療の分野では、発展途上国であったとも考えられます。おりしも今年、西暦2000年は、日蘭修好400年の記念すべき年に当たり、長崎県・市を挙げて各種の記念行事が開催されております。本学会にご参加いただきました皆様方も、お時間の許す限りこの歴史の町に残された文化的遺産に触れていただくようお勧め申し上げます。

第二に、来る8月9日は、55年前に当地長崎に人類史上第2番目の原子爆弾が投下された祈念日に当たります。これに関連する各種行事も数多く行なわれますが、本学会でも長崎大学医学部附属原爆後障害医療研究施設の山下教授が中心となって「国際放射線被爆」に関するシンポジウムを準備していただきました。人類の愚かさの象徴としての原爆の不条理さについては、私ごとき者が今更申しあげるまでもございませんが、この機会に、ホモ・サピエンスとしての人類が、その英知をどのような方向に注ぐべきかを改めて考える良い機会になれば幸いであると存じます。

第三に、当地長崎は日本における現代文明の中心から地理的に遠い場所にあります。このことが幸いして当地には独特の文化が発展し、それらが時の流れにあまり影響されることなく継承されることを可能にしたのではないかと存じます。

このことと関連するかもしれませんが、現代の世界の動きは「市場経済」の原理によって支配されているようにも見られます。国際保健医療のパラダイムもその例外ではないかもしれませ

ん。云いかえれば、先進国の景気回復・経済発展があって初めて、その被益として発展途上国に対する、保健医療分野をはじめとする各種の援助が可能になるという考えがあります。その一方では地球環境問題に示されるように、人類の経済的成長には限界があることが指摘されています。これらの問題を克服して、人類ははたして地球環境の破綻を回避しつつ持続的発展を遂げ、同時に発展途上国における保健医療問題を解決できるのか否かが問われています。本学会のテーマを「新たなチャレンジ・成長の限界をどう超えるか」とした理由もここにあります。この問題は大本先生の「基調講演」で触れていただけるのではないかと期待しております。第四に、当地長崎は日本における西洋医学発祥の地ではありますが、それを可能とした文物を400年以前に西洋から日本に輸送するに要した時間と労力は並大抵のものではありません。それに比べて現代の地球上の各地は地理的・時間的に益々近くなっております。その結果の一つとして、新興・再興感染症(所謂Emerging & Reemerging Diseases)の問題が、地球規模での課題としてクローズアップされています。この領域における世界的権威者であります米国CDCの特殊病原体部長Dr .CJ Peters博士を本学会にお招きして、ウイルス性出血熱に関する特別講演を拝聴することができますことは、この上ない機会であります。ご講演をお引き受けいただきましたCJ Peters博士に、この場を借りまして篤く御礼申し上げます。

また、再興感染症の典型であります「結核」に関しましては、日本国際保健医療学会理事長の職をお勤めいただいております島尾忠男先生に、日本の国際保健医療との関連につきまして、先生の貴重なご体験に基づいた特別講演をお願い致しております。

それでは本日から始まります本学会が稔り多いものとなり、世界人類の健康と福祉の増進に貢献できることを期待致しまして、私のご挨拶とさせていただきます。

平成12年8月3日

長崎大学熱帯医学研究所・所長

第15回日本国際保健医療学会・会長 五十嵐 章

目 次

挨拶	2
大会概要	7
案内図	8
お知らせ・お願い	10

プログラム

日程表	14
会場案内	17

(日程別)

第一日(8月3日・木)午前	19
第一日(8月3日・木)午後	23
第二日(8月4日・金)午前	27
第二日(8月4日・金)午後	29
第三日(8月5日・土)午前	36
第三日(8月5日・土)午後	41

(分野別)

基調講演	23
特別講演(1)	23
特別講演(2)	23
特別講演(3)	29
シンポジウム(1)	29
シンポジウム(2)	29
シンポジウム(3)	41
シンポジウム(4)	41
自由集会	35

市民公開講座	42
留学生・学生交流会	42
一般演題（口演）	
地域保健・プライマリーヘルスケア（１）	24
地域保健・プライマリーヘルスケア（２）	27
母子保健・人口・リプロダクティブヘルス（１）	20
母子保健・人口・リプロダクティブヘルス（２）	31
国際保健・保健政策・保健計画（１）	19
国際保健・保健政策・保健計画（２）	23
国際保健・保健政策・保健計画（３）	30
感染症（１）	25
感染症（２）	32
エイズ	21
研修・教育・技術移転	34
難民医療・緊急援助	26
旅行医学	27
看 護	28
栄養・健康・予防（１）	22
栄養・健康・予防（２）	26
その他の分野	28

抄 録

基調講演・特別講演・シンポジウム	43
一般演題（口演・示説）	65
自由集会・関連講演会案内	179
謝 辞	187

第 15 回日本国際保健医療学会 大会概要

会長： 五十嵐 章（長崎大学熱帯医学研究所）

会期： 2000 年 8 月 3 日（木）～ 5 日（土）

会場： 長崎大学坂本（医学系）キャンパス内

〒 852-8523 長崎市坂本 1-12-4

事務局： 長崎大学熱帯医学研究所・病原体解析部門・分子構造解析分野

〒 852-8523 長崎市坂本 1-12-4

Tel： 095-849-7827

Fax： 095-849-7830

E-mail： f1281@cc.nagasaki-u.ac.jp

（連絡は、なるべく、Fax か e-mail でお願いします）

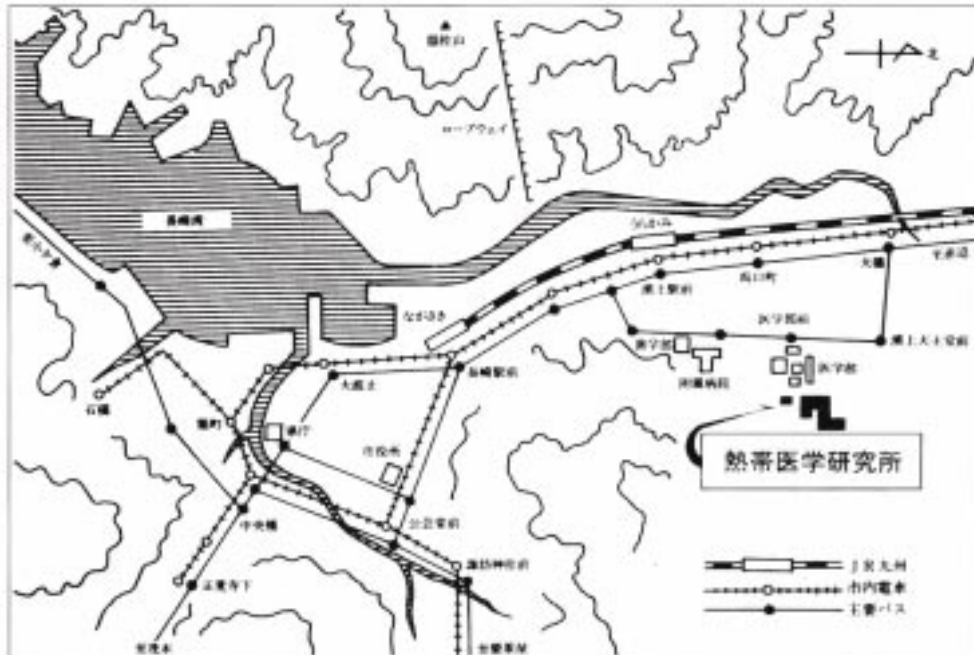
学会関連会議

理 事 会： 2000 年 8 月 2 日（水）18 時 30 分 パークサイドホテル 3 階

評議員会： 2000 年 8 月 3 日（木）12 時 ポンペ会館

総 会： 2000 年 8 月 4 日（金）13 時 記念講堂

長崎大学熱帯医学研究所位置図



研究所までの道順

1. 長崎駅前から： 長崎バス 8 番（医大経由および江平経由下大橋行）に乗り、医学部前下車、徒歩 5 分。
市内電車（赤迫方面行 1、3 番）に乗り、浜口町下車、徒歩 10 分。
タクシーで約 10 分。
2. 浦上駅前から： 徒歩 20 分。タクシーで約 5 分。
3. 長崎空港から： リムジンバス（長崎行）に乗り、長崎駅前下車、その後は 1 による。
リムジンバス（長崎行）に乗り、大橋下車、その後は徒歩 20 分。
またはタクシーで約 5 分。
タクシーで約 1 時間。

所在地 〒 852-8523 長崎市坂本 1 丁目 12—4

URL <http://www.tm.nagasaki-u.ac.jp>



参加者へのお知らせ・お願い

1 . 参加登録について

1) 参加登録 (受付)

場所：医学部記念講堂ロビー

時間：2000 年 8 月 3 日 (木) 午前 8 時から

会場、懇親会ではネームプレートを必ずお付け下さい。

2) 参加費

	事前登録	当日
一般	5,000 円	6,000 円
学生	3,000 円	4,000 円

事前登録は 7 月末日までに、郵便振替でお送り下さい。

口座番号 01720—9—92710

加入者名 15 回日本国際保健医療学会

3) 懇親会

1 日目 (8 月 3 日) 5 時半から生協食堂で行います。

懇親会費は参加費に含まれます。

同伴者など、懇親会のみ参加の方は 1,000 円です。

4) 学会費支払い、入会申し込み

受付に窓口を設けます。

発表者で非会員は必ず入会してください。

5) 抄録集の販売

一部 1,000 円で販売します。

2 . 一般演題の座長及び演者の方へ

1) 発表の 20 分前には指定された席にお着き下さい。

2) 使用できるメディアはオーバーヘッドプロジェクターのみです。

スライドは一切使用できません。

3) トランスペレンシーの操作は各自で行って下さい。

4) 持ち時間は、ひとり 15 分 (発表 10 分、討論 5 分) です。

- 5)トランスペレンシーの枚数は10枚程度が適当です。
- 6)進行は座長におまかせしますが、質疑応答を十分行って下さい。

3 .ポスター発表者の方へ

- 1)掲示場所は医学部ロビーです。
- 2)一日目(8月3日)9時から掲示することができます。
- 3)二日目(8月4日)の13時までには必ず掲示して下さい。
- 4)事前にお知らせした演題番号の掲示板に掲示して下さい。
- 5)三日目(8月5日)の9 - 10時に討論の時間を設けています。
この時間、発表者は必ず掲示の前に立つようにして下さい。
特に司会者等はいませんので、発表など各自行って下さい。
- 6)三日目(8月5日)の17時までには必ず回収して下さい。
17時以降も掲示してあるものは、撤去します。
- 7)掲示板の大きさは横90 、縦200 です。
- 8)大会事務局で用意するものは、演題番号と画鋏だけです。

4 .シンポジウムの座長及び演者の方へ

- 1)構成は座長に一任してあります。座長の指示に従って下さい。
- 2)使用できるメディアはスライド及びオーバーヘッドプロジェクターです。

5 .自由集会オーガナイザーの方へ

- 1)各会場での運営はオーガナイザーが責任を持って行って下さい。
- 2)オーバーヘッドプロジェクターのみ利用可能です。ご相談下さい。

6 .その他の注意事項

- 1 .呼び出しは緊急の場合を除いて行いません。
記念講堂に準備する連絡ボードを使用して下さい。
- 2 .団体、グループで展示、販売したいものがあれば会場を用意します。
ご相談下さい。
- 3 .車での来場はご遠慮下さい。

プログラム

第15回日本国際保健医療学会日程

第一日 8月3日(木)

	記念講堂	ボンベ会館	講義棟(1)	講義棟(2)	熱研大会議室
	受付				
9:00	開会挨拶				
10:00	医療協力・保健政策・保健計画(1) P. 67-72	母子保健・人口・リプロダクティブヘルス(1) P. 73-78	一般演題 エイズ P. 79-82	栄養・健康・予防(1) P. 83-88	
11:00	基調講演 (大木 昌) P. 45				
12:00		評議員会			
13:00					
14:00	特別講演(1) (C.J.Peters) P. 46				
15:00	特別講演(2) (島尾忠男) P. 47				
16:00	医療協力・保健政策・保健計画(2) P. 89-93	地域保健・プライマリヘルスケア(1) P. 94-98	一般演題 感染症(1) P. 99-103	難民医療・緊急援助 栄養・健康・予防(2) P. 104-108	
17:00					
18:00	懇親会 生協食堂 および 中庭でおこないます				
19:00					
20:00					
21:00					

第15回日本国際保健医療学会日程

第二日 8月4日(金)

	記念講堂	ボンベ会館	講義棟(1)	講義棟(2)	熱研大会議室
9:00	会長講演 P. 48				
10:00	一般演題 旅行医学 P. 109-111 地域保健・プライマリーヘルスケア (2) P. 112-114 看護 P. 115-116 その他の分野 P. 117-119				
11:00	シンポジウム(1) (難民と貧困) P. 50-56				
12:00					
13:00	総会				
14:00	シンポジウム(2) 特別講演(3) (川口雄次) P. 49				
15:00					
16:00	一般演題 医療協力・保健政策・保健計画 (3) P. 120-126 母子保健・人口・リプロダクティブヘルス(2) P. 127-134 感染症(2) P. 135-141 研修・教育・技術移転 P. 142-148				
17:00					
18:00	自由集会 臓器移植 国際緊急援助 Safe Motherhood 地理情報システム P. 181-183				
19:00					
20:00					
21:00			片付け		

第15回日本国際保健医療学会日程

第三日 8月5日(土)

	記念講堂	ボンベ会館	講義棟(1)	講義棟(2)	熱研大会議室
9:00			ポスター討議 P. 149-177 医学部ロビーを使用します		
10:00	シンポジウム(3)				
11:00	21世紀への提言 ミレニアム宣言 P. 57-59				
12:00					
13:00					
14:00	シンポジウム(4) (国際放射線保健 医療)				
15:00	P. 60-64				
16:00					
17:00					市民公開講座 (有料)
18:00					(熱帯病研究は人類に 貢献できるか) P. 184-185
19:00					JICA研修生 留学生 学生 交流会 P. 185
20:00					
21:00					

会 場 案 内

大会本会場は 4 か所です。

第一会場：医学部記念講堂

第二会場：ポンペ会館

第三会場：医学部講義室（ 1 ）

第四会場：医学部講義室（ 2 ）

自由集会、関連集会の一部は
長崎大学熱帯医学研究所内でも行われます。

大会議室

（ 9 ページの案内図を参照して下さい。）

プログラム

第1日目 8月3日(木)

8:00- **参加登録開始**

医学部記念講堂ロビー

9:00- **ポスター掲示開始**

医学部玄関ロビー

9:00-9:10 **開会式**

医学部記念講堂

9:15-10:45 **一般口演**

第一会場(医学部記念講堂)

医療協力・保健政策・保健計画(1)

座長: 古田 直樹(国際診断病理センター)

001 ケニアにおけるポリオ対策青年海外協力隊員の現況について

○中野 貴司¹、神谷 齋¹、岩本 園子²、森谷 均³、橋本 尚文⁴、
住田 康雄⁴、平 祐朗⁴、大和田 智恵⁴、影山 訓子⁴、高橋 三愛⁴、
成田 貴子⁴、風間 春樹⁴、前川 正治⁴、内村 衣江⁴、川瀬 加代子⁴、
佐伯 奈美⁴、月坂 尚己⁴

- 1) 国立療養所三重病院小児科
- 2) 国際協力事業団青年海外協力隊事務局
- 3) 国際協力事業団ケニア事務所
- 4) ポリオ対策ケニア派遣青年海外協力隊

002 ケニアのポリオ根絶計画における青年海外協力隊の投入効果について

橋本 尚文¹、大和田 智恵²、影山 訓子²、住田 康雄²、平 祐朗²、
高橋 三愛²、成田 貴子²、内村 衣江²、風間 春樹²、川瀬 加代子²、
佐伯 奈美²、月坂 尚己²、前川 正治²、森谷 均³、大島 英子⁴

- 1) 青年海外協力隊ケニア国ポリオ対策シニア隊員
- 2) 青年海外協力隊ケニア国ポリオ対策隊員

3) J I C A ケニア事務所青年海外協力隊調整員

4) J I C A ケニア事務所青年海外協力隊医療調整員

003 イエメンの末端保健施設における抗結核剤の管理状況

豊川 智之¹、江上 由利子²、平山 恵³、加納 克己³

1) 筑波大学 医学研究科

2) 国立国際医療センター 国際医療協力局

3) 筑波大学 社会医学系

座長：小早川 隆敏(東京女子医科大学)

004 ジンバブエ国における国家住血吸虫症対策のモデル事業

栗澤 俊樹¹、山本 太郎^{1,2}、青木 克巳²、門司 和彦³

1) 国際協力事業団 ジンバブエ国感染症対策プロジェクト

2) 長崎大学 熱帯医学研究所

3) 長崎大学 医療技術短期大学部

005 JICA保健医療プロジェクト参加の経験から

○浦部 大策¹、原野 和芳¹、井手 義雄¹、井手 道雄¹、高岡 宣子²

1) 聖マリア病院

2) 聖マリア病院附属看護短期大学

006 われわれ市民が国際協力に果たす役割と責任

古田 直樹 国際診断病理センター(NPO)

第二会場(ポンペ会館)

母子保健・人口・リプロダクティブヘルス(1)

座長：森 淑江(群馬大学医学部保健学科)

007 ネパール農村における妊娠・出産・産褥期の女性とその家族の健康問題の捉え方
と行動 -医療人類学的研究

松山 章子 ジョンズホプキンス大学公衆衛生大学院博士課程

008 諸外国のリプロダクティブヘルスに関する研究・避妊法の選択について・

○丹野 かほる¹⁾、兵井 伸行²⁾

1) 厚生省保健医療局国立病院部政策医療課

2) 国立公衆衛生院 保健統計人口学部

009 インドネシア、スラバヤのレファレル病院における妊産婦死亡調査;妊婦健診及び
家族計画の有用性

○田口 奈緒¹、川端 真人¹、Dr. Adityawaman²、Dr. Marciano²、
Dr. Lila Dewata²

- 1)神戸大学医学部国際交流センター 国際予防医学教室
- 2)Department of Obstetrics and Gynecology , Dr .Soetomo Hospital ,
Faculty of Medicine , Airlangga University .

座長：中村 安秀(大阪大学人間科学部)

- 010 ミャンマーにおける新生児核黄疸撲滅の試み - 新開発された経皮黄疸計を用いて

久保 隆彦 国立大蔵病院産科

山西 昭夫 ミノルタ株式会社

- 011 パキスタン母子保健プロジェクトにおける母性保健教育教材(絵マニユアル)
の開発

○小山内 泰代¹⁾、金川 修造¹⁾、仲佐 保¹⁾、露木 佳子¹⁾、
長谷部 幸子²⁾、Kausar Iqbal³⁾、Anis Fatima³⁾、Nilofer Ghani³⁾、
Humera Kurshid³⁾

¹⁾国立国際医療センター、²⁾女子栄養大学、³⁾パキスタン医科学研究所

- 012 Oral Cancer Control in Sri Lanka:Contribution of JICA Dental Education Project in relation to National Cancer Control Programme (NCCP) in Sri Lanka

HAGIWARA, Akiko¹、IKEDA, Noriaki²、HANDA, Yujiro¹

1)JICA Dental Education Project, Sri Lanka

2)International Medical Center of Japan

第三会場(医学部講義棟 1)

エイズ

座長：牛島 廣治(東京大学大学院医学研究科)

- 013 西ケニアの伝統的致死性疾患「Chira」とA I D S に対する意識調査

○南 和子¹⁾²⁾、垣本 和宏³⁾、川崎 久美¹⁾

1)元 J I C A 青年海外協力隊

2)北海道医療大学看護福祉学

3)和歌山県立医大産婦人科学

- 014 西ケニアにおけるH I V 母子感染対策としてのZ D V 短期療法の有用性と
Z D V 投与状況

○垣本 和宏^{1,6}、安藤 良弥^{1,6}、白木 公康^{2,6}、市村 宏^{3,6}、
景山 誠二^{2,6}、角野 文彦^{4,6}、藤山 佳秀^{5,6}

1)和歌山県立医大 産婦人科学 2)富山医薬大 ウイルス学

3)金沢大 国際環境保健学 4)滋賀県 彦根保健所

5)滋賀医大 第2内科学

6)JICA ケニア感染症研究対策プロジェクト()

015 途上国における地域ケア推進に果たすボランティアの役割に関する研究

- HIV 感染 / AIDS 患者の支援プログラムに着目して -

大友 優子 国際協力事業団医療協力部特別嘱託

016 マラウイ共和国の HIV / AIDS 感染予防における AIDS 孤児問題の
現状

松井 幾子 女子栄養大学大学院 保健学

第四会場(医学部講義棟 2)

栄養・健康・予防 (1)

座長 : 足立 己幸 (女子栄養大学)

017 インドネシア中部ジャワ州での経済危機の影響下における栄養不良児の増加とその
対策

佐藤 善子・梅内 拓生

東京大学大学院医学系研究科国際保健計画学

018 ケニア農村部と都市スラムにおける 5 歳未満児栄養状態の比較研究

○佐伯 邦子¹・永岡 宏昌¹・江渡 加里奈¹・松木 秀明²・澤田 祐介¹

1)東海大学医学部総合診療学・アフリカ地域開発市民の会

2)東海大学健康科学部

019 ケニア農村部における水環境と健康の実態調査

○澤田 祐介¹・佐伯 邦子¹・江渡 加里奈¹・永岡 宏昌¹・松木 秀明²・

1)東海大学医学部総合診療学・アフリカ地域開発市民の会

2)東海大学健康科学部

座長 : 石井 明 (自治医科大学)

020 住民参加型活動とスプレー式塩のヨード化法によるヨード化塩普及 モンゴルの
ヨード欠乏対策の一試案として

○山田 智恵里^{1,2}、秋山 佳子³、P. エンクトゥヤ⁴、梅内 拓生²

1)弘前大学医療技術短期大学部

2)東京大学大学院医学系研究科 国際保健計画学教室

3)国際協力事業団

4)モンゴル国保健社会保障省

021 植物遺伝子操作技術の応用による機能性食品開発への挑戦

○新川 武¹、只野 昌之²、馬 紹平²、當眞 弘¹、佐藤 茂俊³、
岸本 亜耶乃³、佐藤 良也¹

琉球大・医・¹寄生虫、²ウイルス、³琉球大・農・育種

022 植物発現ベクターによる日本脳炎ウイルス抗原の発現

○只野 昌之¹、新川 武²、馬 紹平¹、加根村 和美¹、當眞 弘²、
岸本 亜耶乃³、佐藤 茂俊³、倉根 一郎⁴、佐藤 良也²、福永 利彦¹

琉球大・医・¹ウイルス、²寄生虫、農・³育種、国立感染症研・⁴ウイルス1部

11 : 00-12 : 00 基調講演

医学部記念講堂

「パラダイム・シフト：保健医療における総合的アプローチをめ
ざして」

大木 昌(明治学院大学国際学部)

座長：溝田 勉(長崎大学熱帯医学研究所)

12 : 00-13 : 15 評議員会

ポンペ会館

13 : 30-14 : 30 特別講演 (1)

医学部記念講堂

Viral Hemorrhagic Fevers and Their Threat

C . J . Peters(CDC , Atlanta , USA)

座長：五十嵐 章(長崎大学熱帯医学研究所)

14 : 30-15 : 30 特別講演 (2)

医学部記念講堂

「日本の国際保健医療協力 - 結核の経験からの反省と問題提起 - 」

島尾 忠男(財団法人結核予防会)

座長：松本 慶藏(長崎大学名誉教授)

15 : 45-17 : 00 一般口演

第一会場(医学部記念講堂)

医療協力・保健政策・保健計画 (2)

座長：山本 保博（日本医科大学）

023 カンボジア国立母子保健センターにおける診療費有料化の試み（第3報）

○明石 秀親^{1,2}、山田 多佳子^{1,2}、藤田 直子²、杉本 孝生^{2,3}、鈴木 ケイ²

1) 国立国際医療センター 国際医療協力局 派遣協力課

2) カンボジア母子保健プロジェクト専門家

3) 九州産業衛生協会

024 ハノイ市における交通事故及び救急体制の実態

石崎 有澄美¹、木村 昭夫¹、富岡 譲二¹、小原 博²、

加藤 紀子²、後藤 眞弓¹、玉井 英世¹

1) 国立国際医療センター 救急部、2) 国立国際医療センター 派遣協力課

座長：若井 晋（東京大学大学院医学系研究科）

025 インドネシアと日本における医療保険制度の変遷と消費者の需要構造分析

小川 寿美子¹、○武藤 正樹²、Rizali Noor³、長谷川 敏彦⁴

1) 琉球大学医学部 保健医学講座 2) 国立長野病院

3) Managed Health Care Organizations

4) 国立医療・病院管理研究所 医療政策研究部

026 インドネシアにおける難聴治療プロジェクト（第5報）・ジャカルタのシンポジウム・講習会とHI京都シンポジウム'99・

酒井 俊一、森満 保、荒牧 元、中井 義明、村上 嘉彦、

石崎 久義、江上 徹也、藤原 久郎、鈴木 淳一

（日本ヒアリングインターナショナル）

027 インドネシアにおける難聴治療プロジェクト（第6報）・Hearing International Japan（HIJ）長崎支部の支援活動・

○江上 徹也¹、藤原 久郎¹、福崎 隆¹、小林 俊光²、酒井 俊一³、
森満 保³、鈴木 淳一³

1) HIJ 長崎支部 2) 長崎大耳鼻咽喉科 3) HIJ

第二会場（ボンペ会館）

地域保健・プライマリーヘルスケア（1）

座長：横内 定明（神戸大学医学部国際交流センター）

028 スリランカの母子保健に纏わる伝統的健康行動の医療人類学的研究

○樋口 まち子 （スリランカ看護教育プロジェクト専門家）

029 フィリピン・セブ市における高血圧の実態と要因

○江渡 加里奈・佐伯 邦子・澤田 祐介 （東海大学医学部総合診療学）

030 東ティモール地域医療・保健プロジェクト（第1報）・緊急救援からプラ

イマリヘルスケアへの道のり -

川口 みどり、工藤 芙美子、徳田 栄子、加藤 奈津子、神谷 保彦、
本田 徹 SHARE = 国際保健協力市民の会

座長：近藤 健文（慶応義塾大学）

031 ジャマイカ国南部地域における生活習慣病に関する調査

○館田 有佳子¹、三田 禮造²、山田 智恵里³、Michael Coombs⁴、
Fay Petgrave⁴、Eva Lewis Fuller⁵

1) 弘前保健所 2) 弘前大学医学部公衆衛生学講座

3) 弘前大学医療技術短期大学部看護学科

4) ジャマイカ国南部地域保健事務所

5) ジャマイカ国保健省

032 カンボジア人中学生への口腔保健活動

○鈴木 基之、長谷川 紘司 昭和大学医学部歯周治療学教室

第三会場（医学部講義棟 1）

感染症（1）

座長：金子 明（東京女子医科大学）

033 Chagas 病患者の心電図所見・ブラジル、セアラ州での経験・

○下川 洋¹⁾、羽根田 潔²⁾

1) Madalena 市立病院

2) 国際協力事業団、ブラジル家族計画母子保健プロジェクト

034 熱帯熱マラリア原虫の再燃の研究

中澤 秀介 長崎大学熱帯医学研究所

035 選択的プライマリーヘルスケア活動としてのマラリア対策：

ソロモン諸島における治療対策の新しい実施方法

石井 明、石川 洋文、中沢 港、川端 真人、永井 伸彦、

大前 比呂志、A .Bobogare、L .Boaz、J .Leafasia

自治医科大学、岡山大学、東京大学、神戸大学、国際医療センター、
筑波大学、ソロモン諸島医学訓練研究所

座長：川端 真人（神戸大学医学部国際交流センター）

036 ソロモン諸島における結核対策成功事例

○下内 昭、山田 紀男、星野 斉之、藤木 明子、石川 信克

結核予防会結核研究所

037 ポリビア及びパラグアイの日系人移住地での腸管寄生虫の罹患状況

○安倍 正史¹、三浦 左千夫²、山田 知恵³、井上 和雄³、
仁田原 憲二⁴、岡田 潤⁵、中村 文規¹

- 1) 昭和大学医動物学教室、 2) 慶応大学熱帯医学寄生虫学教室、
3) オキナワ移住地診療所、 4) サンファン移住地診療所、
5) イグアス移住地診療所

第四会場(医学部講義棟 2)

難民医療・緊急援助

座長：喜多 悦子(国立国際医療センター国際協力局)

038 コーディネーターとしてのコソボ緊急援助活動 国際看護専門職の役割
近藤 麻里¹ 高野順子²

- 1) 高知医科大学 看護学科助手 2) 高知医科大学 看護学科教授

039 モザンビーク洪水災害救援国際緊急援助隊医療チーム活動報告

○近藤 久禎¹、橋爪 真弘¹、京極 多歌子²、村上 勉²、山本 保博¹

- 1) 日本医科大学
2) 大阪府立千里救命救急センター

栄養・健康・予防(2)

座長：松田 晋哉(産業医科大学)

040 ネパール王国ダパケル村の砂糖・甘味食品消費実態とその食生態的背景

○安部 一紀^{1,3}、中村 修一^{2,3}、小川 孝雄^{2,3}、深井 穂博³、
大野 秀夫³、太田 信知³、駒井 伸也^{3,4}、満田 隆之^{3,4}

- 1) 西南女学院短期大学 2) 九州歯科大学
3) ネパール歯科医療協力会 4) 東北大学歯学部

041 子どもへの健康教育は両親に影響するか・ネパールにおける口腔保健行動調査・

○小川 孝雄^{1),2)}、深井 穂博²⁾、中村 修一^{1),2)}、山根 香²⁾、白田千代子²⁾
矢野 裕子²⁾、安部 一紀^{2),3)}

- 1) 九州歯科大学 2) ネパール歯科医療協力会
3) 西南女学院短期大学

042 途上国での歯科治療受診者の口腔疾患への感受性と口腔保健行動

○深井 穂博¹、沼口 麗子¹、中村 修一^{1,2}、小川 孝雄^{1,2}、山根 香¹、
矢野 裕子¹、白田 千代子¹、徳永 一充¹

- 1) ネパール歯科医療協力会 2) 九州歯科大学

プログラム

第2日目 8月4日(金)

9:00-9:30 会長講演

医学部記念講堂

Impact of Japanese Encephalitis and Dengue Virus Infection in Southeast Asia

五十嵐 章(長崎大学熱帯医学研究所)

座長: 梅内 拓生(東京大学大学院医学系研究科)

9:45-10:30 一般口演

第一会場(医学部記念講堂)

旅行医学

座長: 吉武 克宏(国立国際医療センター)

043 海外在留邦人の滞在地の医療環境に関する意識調査

○氏田 由可、本多 瑞枝、西川 哲男、濱田 篤郎

労働福祉事業団 海外勤務健康管理センター

044 東南アジア在住日本人の保健医療状況

○小川 康恭¹、吉田 吏江¹、荒川 千夏子¹、大友 弘士²

1) 労働省産業医学総合研究所 有害性評価研究部

2) 東京慈恵会医科大学 熱帯医学

045 海外渡航者の下痢症・海外で罹患した細菌性赤痢とその薬剤耐性

○小坂 健¹、岡部 信彦¹、松本 泰治²、石井 俊也²、横田 勉³、
森 和弘³

1) 国立感染症研究所

2) 成田空港検疫所

3) 関西空港検疫所

第二会場(ポンペ会館)

地域保健・プライマリーヘルスケア(2)

座長: 丸地 信弘(信州大学医学部)

046 レファラルシステムの実践のために・サンタクルス医療供給システムプロジェクトの経験から

○三好 知明¹、鈴木 洋子¹、富岡 譲二²、磯東 一郎³

¹ 国立国際医療センター国際医療協力局

² 同センター救急部

³医療法人雪ノ聖母会聖マリア病院

047 バングラデシュの1農村地域の小児気管支喘息の有病率

○竹内 治子¹、ライスール・ハック²、岩田 力³、若井 晋¹

1) 東大国際地域保健 2) バングラデシュ農村振興協会(B R A C)

3) 東大分院小児科

048 医学的視点と社会学的視点から見たDrug Revolving Foundプロジェクトの評価

○関 なおみ¹、佐藤 寛²

1) 東京都豊島区中央保健福祉センター 保健医療担当係

2) 貿易振興財団アジア経済研究所 経済協力研究部

第三会場(医学部講義棟1)

看護

座長：柳沢 理子(三重県立看護大学)

049 国際協力に関わる看護人材育成に関する基礎調査 ・看護専門学校に於ける国際化対応カリキュラムの導入状況・

矢嶋 和江(GUNMA PAZ JUNIOR COLLEGE OF NURSING)

050 看護の質の評価指標を用いたプロジェクト運営の効果 ・インドネシア、ストモ病院救急医療プロジェクトにおいて・

○高岡 宣子(聖マリア学院短期大学)

井手 道雄、井手 義雄(聖マリア病院)

第四会場(医学部講義棟2)

その他の分野

座長：吉村 健清(産業医科大学)

051 神経性食欲不振症の早期回復のためのデータベース開発

○鳴野 和子、曾我部 るみ子、朝川 洋子、高橋三枝子

東京警察病院 C3病棟

052 九州地域における外国人の受診行動に関連する要因

○平野(小原)裕子 九州大学医療技術短期大学部

053 日本における医療技術大学学生の喫煙状況

○スミス・マーシャル¹⁾、梅内 拓生¹⁾・飯田 康子²⁾

1) 東京大学大学院医学系研究科国際保健計画学

2) 東京都立保健科学大学看護学部

10 : 30-12 : 00 シンポジウム (1)

医学部記念講堂

「難民と貧困を巡る国際保健医療」

コーディネーター:

山本 勇次(大阪国際大学法政経学部)

川端 真人(神戸大学医学部医学研究国際協力センター)

溝田 勉(長崎大学熱帯医学研究所)

ネパール、ポカラ市の「土地難民」に見る生活環境劣化

山本 勇次(大阪国際大学法政経学部)

ベンガルの地方都市における衛生設備の普及と儀礼的浄・不浄観

村瀬 智(大谷女子短期大学国際文化学科)

アフリカ諸地域の難民長期支援

山本 秀樹 (岡山大学公衆衛生学講座)

菅波 茂 (アジア医師連絡協議会)

民族紛争と難民保健医療

中村 安秀(大阪大学人間科学部)

強制移動民対策のジレンマ - 対症療法と根治療法 -

喜多 悦子(国立国際医療センター)

難民保健医療活動が国際協力に示唆する貧困対策

溝田 勉(長崎大学熱帯医学研究所)

13 : 00-13 : 30 総会

医学部記念講堂

13 : 30-15 : 00 シンポジウム (2)

医学部記念講堂

「熱帯感染症を国際的視野でどう捉えるか」

コーディネーター:

板倉 英 (長崎大学熱帯医学研究所)

楽得 康之(Tulane University , New Orleans , USA)

特別講演 (3)

「21世紀の健康: WHO 神戸センターの世界展望」

川口 雄次(WHO 健康開発総合研究センター(WHO 神戸センター))

緊急発言・問題提起

C . J . Peters(CDC , Atlanta , USA)

15 : 15 - 17 : 00 一般口演

第一会場(医学部記念講堂)

医療協力・保健政策・保健計画(3)

座長 : 上原 鳴夫(東北大学大学院医学研究科)

054 中国におけるエキノコックス症、有鉤囊虫症対策に向けた多国間協力への展開

○伊藤 亮¹、中尾 稔¹、迫 康仁¹、中谷 和宏²

1)旭川医科大学医学部寄生虫学講座

2)旭川医科大学医学部動物実験施設

055 労働組合イニシアティブによる参加型安全衛生活動への支援 ・モンゴルにおけるPOSITIVEプロジェクト経験から・

○吉川 徹¹、外山 尚紀²、秋場 美奈子³、川上 剛⁴

1)(財)労働科学研究所 教育・国際協力室

2)東京労働安全衛生センター

3)(財)国際労働財団 支援事業部

4)ILOアジア太平洋地域事務局 東アジア多角的専門家チーム

056 タイ国におけるHIV母子垂直感染予防システムの費用対効果比の検討

○稲葉 淳一¹、永松 あかり¹、箕浦 茂樹¹、岡 慎一²、帖佐 徹³

1)国立国際医療センター 病院 産婦人科

2)国立国際医療センター エイズ治療研究開発センター

3)国立国際医療センター 国際医療協力局

057 タイ王国パヤオ県におけるHIV母子垂直感染予防の現況について

○永松 あかり¹、稲葉 淳一¹、箕浦 茂樹¹、岡 慎一²、帖佐 徹³

1)国立国際医療センター 病院 産婦人科

2)国立国際医療センター エイズ治療研究開発センター

3)国立国際医療センター 国際医療協力局

座長 : 丸井 英二(順天堂大学医学部)

058 保健を支える社会基盤

○羽根田 潔¹、三砂 ちづる¹、小貫 大輔¹、毛利 多恵子¹、定森 徹¹

藤原 美幸¹、梅内 拓生²

1)国際協力事業団、ブラジル家族計画母子保健プロジェクト

2)東京大学国際保健計画学教室

059 フィリピンの都市および農村における家庭の疾病治療にかかる財政費用の比較に関する研究

本田 文子¹、梅内 拓生²、三浦 宏子³、濱田 彰²

1)(財)国際開発センター 2)東京大学 国際保健計画学教室

3)九州保健福祉大学 保健科学部

060 ストモ病院救急医療プロジェクトにおける診療情報録の改善活動の歩み

○原野 和芳¹、三宅 裕子²、津田 佳彦¹、井手 義雄¹、井手 道雄¹

1)聖マリア病院 2)東筑紫短期大学

第二会場 (ポンペ会館)

母子保健・人口・リプロダクティブヘルス (2)

座長: 戸塚 規子 (新潟大学医療技術短期大学部)

061 R A P (Rapid Anthropological Assessment Procedure) を用いたブラジルセアラ州 5 市における出生と出産の状況: 1996 年から 2000 年までの変化

○三砂 ちづる^{1,2}、Carl Kendall²、羽根田 潔¹、Dirlene Mafaldas³

Francisco Holanda Junior³、小貫 大輔¹、毛利 多恵子¹、定森 徹¹

梅内 拓生⁴

1)国際協力事業団ブラジル家族計画母子保健プロジェクト

2)ロンドン大学衛生熱帯疫学人口科学部母子疫学ユニット

3)ブラジルセアラ州保健局

4)東京大学医学系大学院国際保健計画学教室

062 ブラジル東北部における「人間的な出産と出生」の試み - 人間的な助産トレーニングと医療者の変化 -

○毛利 多恵子¹、羽根田 潔¹、小貫 大輔¹、三砂 ちづる¹、定森 徹¹

Aldenira. L. P.²、Angela U.S.²、M. Rejina F.² 梅内 拓生³

1)JICA ブラジル家族計画母子保健プロジェクト

2)セアラ州保健局

3)東京大学医学部国際保健計画学教室

063 ブラジル東北部の遠隔地におけるコンドーム安価販売プログラムのインパクト

○小貫 大輔¹、羽根田 潔¹、三砂 ちづる¹、定森 徹¹、毛利多恵子¹

マルシア・アラウージョ²、梅内 拓生³

1)JICA—ブラジル家族計画・母子保健プロジェクト

2)アリアンサ・ルス

3)東京大学医学部国際保健計画学教室

064 妊娠 / 胎児死亡 / 小児死亡と女性の教育 / 収入との関連 - マダガスカルにおける女性アンケート調査結果 -

○永井 周子¹、若杉 なおみ¹、RANDRIANARIVO -SOLOFONIAINA²

1)国立国際医療センター研究所

2)マダガスカルマジュンガ地方医務局

座長：李 節子(東京女子医科大学看護学部)

065 マダガスカルにおけるH I V / S T I 防御(condom use)と女性のエンパワメントの
関連

○若杉 なおみ¹、永井 周子¹、RANDRIANARIVO -SOLOFONIAINA²

1)国立国際医療センター研究所

2)マダガスカルマジュンガ地方医務局

066 コートジボアールの辺地における母子保健の現状と課題

○長堀 智香子¹、釜谷 寛之¹、田村 豊光²、清水 利恭²

1)国際協力事業団 医療協力部

2)国立国際医療センター 国際医療協力部

067 リプロダクティブヘルスの評価とその指標 ～マクロレベルおよびミクロレベルにお
ける評価の試み(中間報告)～

○兵藤 智佳¹、竹内 百重²、柳堀 朗子³、阿部 貴美子⁴

1)東京大学大学院 教育学研究科

2)九州保健福祉大学 社会福祉学部

3)愛知県立看護大学 看護学部

4)(財)国際開発センター 調査部

068 女性の出産体験の分析 ・助産所からの提言・

○野口 真貴子¹、毛利 多恵子²、毛利 種子³、三砂 ちづる²

藤原 美幸²、岡田 麻衣¹、梅内 拓生¹

1)東京大学大学院 国際保健計画学

2)国際協力事業団(J I C A)ブラジル家族計画母子保健プロジェクト

3)毛利助産所

第三会場(医学部講義棟1)

感染症(2)

座長：須知 雅史(結核予防会結核研究所)

069 1995—1997年の日本とタイ国でのロタウイルス感染の状況

周 玉梅、○牛島 廣治

東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻発達医科学

070 中国貴州省におけるハイリスクA F P 集団発生事例の疫学調査 -W H O 西太平洋地区

ポリオ根絶への最終段階 -

○中島 一敏²⁾³⁾、小松崎 眞²⁾、大山 卓昭¹⁾、高橋 央¹⁾、岡部 信彦¹⁾

- 1)国立感染症研究所感染症情報センター
- 2)同実地疫学専門家養成コース(F E T P)
- 3)大分医科大学微生物学講座

071 タイ王国南部ハンセン病療養所の実態

○志賀 文哉¹⁾、内山 三郎¹⁾、Virasakdi Chongsuvivatwong²⁾

- 1)青森県立保健大学健康科学部
- 2)Epidemiology Unit, Prince of Songkla University

座長：岩永 正明(琉球大学医学部)

072 長期海外滞在者におけるデングウイルス感染状況の検討

○山田 堅一郎¹⁾、高崎 智彦¹⁾、濱田 篤郎²⁾、奥沢 英一²⁾、名和 優³⁾
倉根 一郎¹⁾

¹⁾国立感染症研究所ウイルス第1部、²⁾海外勤務健康管理センター

³⁾埼玉医科大学・微生物学

073 ラオスの都市近郊農村における環境保健

○中村 哲¹⁾、翠川 裕^{1,2)}、斎藤 美加³⁾、鈴木 琴子⁴⁾、山中 美紀¹⁾
P. ラッタナポー⁵⁾

- 1)国立国際医療センター研究所プロジェクト評価研究室
- 2)鈴鹿医療科学大学公衆栄養学教室
- 3)琉球大学医学部ウイルス学講座
- 4)呉大学看護学部地域看護
- 5)ラオス国立マホソット病院微生物検査室

074 ザンビア共和国ルサカ市におけるコレラ患者の疫学的分析

○山本 秀樹^{1,2,3)}、及川 雅則^{2,3)}、菅波 茂³⁾、吉良 尚平¹⁾

- 1)岡山大学公衆衛生学講座
- 2)前JICAルサカ市プライマリーヘルスケアプロジェクト専門家
- 3)AMDA(アジア医師連絡協議会) 日本支部

075 Community based ITMn Project in Zimbabwe

Tsuyuoka R^{1,2)}、Yamamoto T^{1,3)}、Makunike B^{1,4)}

- 1)Infectious disease control project in Zimbabwe (MOHCW -JICA)
- 2)Dept . of Medicine and Clinical Science , Kyoto Univ .
- 3)Dept . of Social Medicine , Institute of Tropical Medicine , Nagasaki Univ .
- 4)Dept . of Epidemiology and Disease Control , Ministry of Health And Child Welfare

第四会場（医学部講義棟2）

研修・教育・技術移転

座長：国井 修（東京大学大学院医学系研究科）

076 インドネシア、ロンボク島における小学生を対象としたマラリアアンケート調査の結果

○松尾 敏明¹、川島 正久²、川端 真人¹

1) 神戸大学医学部医学研究国際交流センター国際予防医学

2) 若宮病院産婦人科

077 スリランカ・ペラデニヤ大学歯学教育プロジェクトにおける口腔癌手術の技術移転：第2報

○川口 浩司、佐藤 淳一、半田 裕二郎*、瀬戸 皖一

鶴見大学歯学部口腔外科第1講座

国際協力事業団（JICA）国際協力専門員室*

078 フィリピンにおける国際協力フィールドワーク フェローシップでの体験と意義

岡村 直樹、目原 久美、下島 圭子

079 パラグアイにおける看護スタッフへのスーパーヴィジョン方法の改善

大西 真由美 茨城県立医療大学保健医療学部 看護学科

座長：村居 正雄（海野町歯科診療所）

080 国際歯科保健における機材の管理運営システムについて

○中村 修一^{1,2}、小川 孝雄^{1,2}、蒲池 世史郎²、太田 信知²

山根 香²、大野 秀夫²、小原 真和²、駒井 伸也^{2,3}

1) 九州歯科大学 2) ネパール歯科医療協力会 3) 東北大学歯学部

081 途上国における口腔保健専門家養成プログラムの評価

○小宮 愛恵¹、蒲池 世史郎²、中村 修一^{2,3}、小川 孝雄^{2,3}

安部 一紀^{2,3}、深井 穂博²、矢野 裕子²、松岡 奈保子²

1) 国立公衆衛生院 2) ネパール歯科医療協力会 3) 九州歯科大学

4) 西南女学院短期大学

082 口腔保健専門家養成における検診トレーニングの試み - 問題発見、問題解決能力の付与は可能か -

○小原 真和¹、蒲池 世史郎¹、中村 修一^{1,2}、小川 孝雄^{1,2}

深井 穂博¹、沼口 麗子¹、小宮 愛恵^{1,3}、重田 幸司郎¹

1) ネパール歯科医療協力会 2) 九州歯科大学 3) 国立公衆衛生院

17 : 00 - 20 : 45 自由集会（詳細は 181 ページをご覧ください。）

第二会場（ポンペ会館）

臓器移植

第三会場（医学部講義棟 1 ）

国際緊急援助

第四会場（医学部講義棟 2 ）

Safe Motherhood

長崎大学熱帯医学研究所大会議室

地理情報システム

プログラム

第3日目 8月5日(土)

9:00-10:00 ポスターセッション

医学部玄関ロビー

地域保健・プライマリーヘルスケア

083 コートジボアールにおける伝統医療の現状とその政策的展望

○清水 利恭¹⁾、田村 豊光¹⁾、長堀 智香子²⁾、釜谷 寛之²⁾、

1)国立国際医療センター 国際医療協力局

2)国際協力事業団 医療協力部

084 社会支援と生活の質(QOL): タイ・チェンマイ県在住のHIV感染者の場合

○市川 政雄^{1,4)}、Chawalit Natpratan²⁾、帖佐 徹³⁾、丸井 英二⁴⁾

1)国立国際医療センター研究所 地域保健医療研究部

2)Office of Communicable Disease Control (CDC) Region 10 Chiang Mai

3)国立国際医療センター 国際医療協力局

4)順天堂大学医学部 公衆衛生学教室

085 発展途上国のプライマリーレベルにおける臨床検査に関する研究

○佐藤 准子、工藤 芳子、兵井 伸行

国立公衆衛生院保健統計人口学部

086 発展途上国での周産期管理における臨床検査の役割

カンボジア都市部3次医療施設での尿蛋白マス・スクリーニングと妊娠中毒症

○工藤 芳子¹⁾、佐藤 准子¹⁾、兵井 信行¹⁾、藤田 則子²⁾

1)国立公衆衛生院 保健統計人口学部

2)国立国際医療センター 国際医療協力局

母子保健・人口・リプロダクティブヘルス

087 THE FACTORS INFLUENCING GENDER DIFFERENCE IN VACCINATION IN CHITWAN, NEPAL

○Amane FUNABASHI, Nobuyuki HYOI

National Institute of Public Health

088 ケニア国における最近10年間の出生力について

○綿引 信義、西田 茂樹 国立公衆衛生院 保健統計人口学部

089 開発途上国向けLDRベッドの開発

○定森 徹¹、羽根田 潔¹、小貫 大輔¹、毛利 多恵子¹

三砂 ちづる¹、梅内 拓生²

1) 国際協力事業団、ブラジル国家家族計画・母子保健プロジェクト

2) 東京大学国際保健学教室

090 Characteristics of Women Who Visit a Family Planning Clinic and the Regularity of Their Visits in Yemen.

○Emi Inaoka^{*}, Fumie Takagi^{*}, Yasuhide Nakamura^{**}

Susumu Wakai^{*}

^{*}Graduate School of Medicine, The University of Tokyo

^{**}Faculty of Human Sciences, Osaka University

医療協力・保健政策・保健計画

091 開発途上国大都市部の公衆衛生・保健医療改善のための協力計画の立案(その1)

○長谷川 豊¹、中嶋 宏²

1) 国際医療福祉大学

2) 国際医療福祉総合研究所

092 Community-based Approaches to prevent Japanese Encephalitis Control Project, Nepal (Tikapur) by Peace Corps in U. S. A.

Tsutomu Mizota¹, Yasuyuki Rakue^{1,2}, Assaf Abdelghani²

1) Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University, Nagasaki, JAPAN

2) School of Public Health Tropical Medicine, Tulane University

Medical Center, New Orleans, LA, U. S. A.

093 タイ王国の一地方都市における医療保険へのWillingness to payに関する研究

○北島 勉¹、野山 修¹、丸井 英二²、Weerasak Chaipah³、

Yupa Thavornpitak³、Nonglak Chuayna⁴

1) 杏林大学保健学部

2) 順天堂大学医学部

3) コンケン大学公衆衛生学部

4) シリントーン公衆衛生専門学校

094 ミャンマー連邦における口腔保健活動

○百瀬 学、村居 正雄 歯科保健医療国際協力協議会

095 ウズベキスタンの保健制度改革とPHC

○柳澤 理子 三重県立看護大学

096 途上国における救急医療体制を中心とした地域医療の再編 -サンタクルス医療供給システムプロジェクトでの経験から-

○富岡 譲二、三好 知明

国立国際医療センター(元サンタクルス医療供給システムプロジェクト)

097 A cooperative trial and a plan in an international health for the control of Chagas disease with scientific utilization of local medicinal plants

Jun Maki¹⁾, Armando Caceres²⁾, Hisashi Kojima³⁾

Masahiro Kuwada⁴⁾, Yoichi Ito¹⁾, Hiroshi Sakagami⁵⁾

Fabiola Meza²⁾, Vivian L. Matta²⁾, Federico Nave²⁾

Kazuki Ogata⁶⁾, Yuichiro Tabaru⁶⁾ and Isao Tada⁷⁾

1)Dept. Parasitology, and 4)Dept. Biochemistry, Kitasato University School of Medicine, Japan, 3)Dept. Medicinal Plant Garden, School of Pharmaceutical Sciences, Kitasato University, Japan

2) Faculty of Chemical Sciences and Pharmacy, University of San Carlos (USAC), Guatemala

5)Dept. Dental Pharmacology, School of Dentistry, Meikai University, Japan

6)Project of Japan International Cooperation Agency in Guatemala

7)Dept. Parasitology, School of Medicine, Kyushu University, Japan

感染症

098 インドネシアにおけるハンセン病の流行 ・現状と21世紀に残された課題・

○和泉 眞藏¹⁾、佐伯 圭介²⁾、Teky Budiawan³⁾、Mochammad Hatta⁴⁾

Indropo Agusuni⁵⁾

1) 国立療養所大島青松園 外科

2) 国立療養所大島青松園 皮膚科

3) Rumah Sakit Kusta Ternate, Ternate

4) Department of Microbiology, Medical Faculty, Hasanuddin University, Makassar

5) Department of Dermato -venereology, Dr Soetomo Hospital, Surabaya

エイズ

099 HIV PREVENTION PROGRAM AMONG COMMERCIAL SEX WORKERS IN KAMATIPUR AREA MUMBAY (BOMBAY) INDIA

Yasuyuki Rakue^{1,2,3)} Tsutomu Mizota²⁾ Shailesh Hegde^{1,4)}

Assaf Abdelghani¹

1)School of Public Health & Tropical Medicine, Tulane University
Medical Center, New Orleans, LA, U. S. A.

2)Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University, Nagasaki, JAPAN

3)Faculty of Public Health, Mahidol University, Bangkok, THAILAND

4)Bangalore Medical College, Bangalore, INDIA

研修・教育・技術移転

100 共生の時代の新しい健康科学の教育研修の理論と実際 ～タイと中国での保健医療従事者に向けた教育訓練による研究開発～

○丸地 信弘¹、張 兵¹、守山 正樹²、Piyatida Junlapeeya³
魏 寧⁴

1)信州大学医学部公衆衛生

2)福岡大学医学部公衆衛生

3)タイ・ランパン看護大学

4)中国・河北医科大学 / 衛生庁

101 社会保障に係る国際協力のための専門家研修・教育カリキュラムの検討

小林 廉穀¹、甲斐 一郎¹、内田 康雄²

1)東京大学大学院医学系研究科

2)神戸大学大学院国際協力研究科

難民医療・緊急援助

102 コソボ紛争・緊急援助

アドラ国際援助機構によるプライマリー・地域保健プロジェクト活動報告

○北原 みどり 聖マリア学院短期大学 看護学科

看護

103 看護分野における国際協力の発展 ・ネパール教育病院に派遣されたJOCV看護職隊員の業務の継続性・

○田中 博子¹、戸塚 規子²、森 淑江³、柳澤 理子⁴、伊藤 尚子⁵
根本 恵子⁶、清水 直美⁷

1)神奈川県立衛生短期大学

2)新潟大学

3)群馬大学

4)三重県立看護大学

5)湘南看護専門学校

6)米国ウィスコンシン大学

7)青年海外協力隊シニア海外ボランティア

104 象牙海岸共和国における看護士・婦に対する継続教育の現状

○田村 豊光¹⁾、清水 利恭¹⁾、長堀 智香子²⁾、釜谷 寛之²⁾

- 1)国立国際医療センター 国際医療協力局
- 2)国際協力事業団 医療協力部
- 105 ニカラグア国の保健センター・保健ポストへの看護人材の配置
○森 淑江(群馬大学医学部)
Aura Lila Molina Ramirez(Nicaraguan Nurses Association)
- 106 青年海外協力隊看護職隊員の活動支援に関する考察 -活動支援依頼書による質問・資料依頼の傾向から -
戸塚 規子 新潟大学医学部保健学科
- 107 留学生の保健行動に関する調査
中尾 理恵子¹、坂梨 恵美¹、武田 幸子¹、中村 由梨子¹
古田 望美¹、丸橋 由香¹、森 淑江²
1)長崎大学医療技術短期大学看護学科
2)群馬大学医学部保健学科

栄養・健康・予防

- 108 ネパール多民族集団間の食品摂取をめぐる価値認識と選好
○横尾 美智代¹、高橋 達也²、山本 勇次³
1)長崎大学 大学院教育学研究科社会心理学専攻大学院生
2)長崎大学 医学部衛生学教室
3)大阪国際大学 法政経学部
- 109 ネパール農村部の子どもの栄養状態と労働の実態
山中 美紀 国立国際医療センター研究所
- 110 東京都・神奈川県における在日外国人健診活動報告
○大脇 甲哉^{1,2}、沢田 貴志^{1,2}、金沢 さだこ¹、仁科 晴弘¹
早川 寛²、本田 徹¹
1)SHARE(国際保健協力市民の会)
2)港町診療所
- 111 東京の在日外国人における口腔内の状況と問題点
○中久木康一^{1,2}、大脇 甲哉¹、沢田 貴志¹、金沢 貞子¹、仁科 晴弘¹
本田 徹¹
1)SHARE(国際保健協力市民の会)
2)東京医科歯科大学医歯学総合研究科顎顔面外科

10 : 00-12 : 00 シンポジウム (3)

医学部記念講堂

「国際保健医療から 21 世紀への提言」

ミレニアム宣言 IN NAGASAKI

コーディネーター:

楽得 康之(Tulane University , New Orleans , USA)

溝田 勉(長崎大学熱帯医学研究所)

21世紀の文明と国際協力

梅内 拓生(東京大学大学院医学研究科)

保健医療技術協力プロジェクト運営上の留意点

吉武 克宏、三好 知明(国立国際医療センター)

日本国際保健医療学会から21世紀への提言

菅波 茂(AMDA 代表理事)

コメンテーター: 我妻 堯(国際厚生事業団)

13 : 30-15 : 30 シンポジウム (4)

医学部記念講堂

「国際放射線保健医療の現状と展望」

コーディネーター:

山下 俊一(長崎大学医学部原研分子医療部門)

世界の放射線被ばく者への医療支援の現状と展望

山下 俊一(長崎大学医学部原研分子医療部門)

マーシャル諸島における放射線被爆者医療協力

高橋 達也(長崎大学医学部衛生学教室)

セミパラチンスク核実験による放射能汚染と生物学的影響

田中 公夫(広島大学原爆放射能医学研究所分子細胞遺伝)

中央アジアの放射能汚染問題

塚谷 恒雄(京都大学経済研究所資源環境研究部門)

国際放射線ヒバクシャ遠隔医療診断支援ネットワークの構築

高村 昇(長崎大学医学部原研国際放射線保健部門)

15 : 30 閉会式

医学部記念講堂

16 : 00-18 : 15 市民公開講座

長崎大学熱帯医学研究所大会議室

「熱帯病研究はいかに人類に貢献できるか」

感染症の発病と防御のメカニズム ー増える白血球は役に立つのかー

中村 三千男(長崎大学熱帯医学研究所)

感染症でおこるからだの変化と修復 ーからだを開けてみるー

板倉 英世(長崎大学熱帯医学研究所)

感染症の予防・治療 ー賢い予防策ー

永武 毅(長崎大学熱帯医学研究所)

18 : 30-20 : 30 留学生・研修生・学生交流会

長崎大学熱帯医学研究所大会議室

コーディネーター：佐々木 幸男(国際協力事業団、九州国際センター)

-17 : 00 ポスター掲示回収

医学部玄関ロビー